

月山&鳥海山&熊野岳山行報告

【山行日】2023年 8月6(日)~8(火)

【集 合】栃木市運動公園P AM 3:50

【費 用】マイカー1台 : 33,800円

【メンバー】CL:鈴木、SL:廣瀬、
飯野、石澤、小林、福島

8月6日(日)

姥沢登山口からリフトを利用して月山山頂に登り、下山後鳥海山に向かって移動し、遊佐町の温泉施設「遊楽里」に宿泊する。

栃木市運動公園P3:50=姥沢P7:10/7:20~リ

フト山麓駅 7:35/8:05+++山頂駅 8:20~姥ヶ岳 8:40/8:50~牛首 9:20/9:30~月山 10:15/10:35~

牛首 11:00~リフト山頂駅 11:35/13:00+++山麓駅 13:15~姥沢P13:25/13:50=遊楽里 16:10

今回は八方尾根から五竜岳・鹿島槍ヶ岳を縦走する予定だったが、天気予報が急変し急遽東北



の山3座に変更した。前日の五竜・鹿島槍ヶ岳の天気予報を見ると、核心部を歩く7日が曇り時々雨に変っていた。クサリ場やハシゴが連続する岩稜を縦走するロングコースなので、雨が降ると危険と判断し中止にした。代替山行として月山、鳥海山、蔵王熊野岳の3座を計画し、参加者に連絡する。それからが大変で、山小屋やタクシーの予約をキャンセルし、新たに東北の宿泊場所を探して予約しなければならない。何とか泊まれる宿を見つけて予約出来た

ので、計画書を変更し皆さんに送った。

月山リフトの混雑を予測し、3:50に栃木市運動公園を出発する。東北道を北上して山形自動車道を走り、月山姥沢の広い駐車場に着く。支度を整えトイレを済ませて、月山リフトの下駅まで歩いて行く。駅に着くとすでに30人くらい並んでおり、列の最後尾に並ぶ。8:00からリフトが動きリフトに乗って山頂駅に着く。ここから姥ヶ岳まで登り、山頂で小休止して衣服調整と水分補給を行う。山頂の周りにはお花畑が広がり、展望も良くこれから登る月山が望める。ここからは木道を歩くよ



うになり、平坦な稜線をイワイチョウやハクサンフウロ等のお花を楽しみながら歩いて行く。

金姥で湯殿山への道を左に分け、稜線の南側を緩やかに登って行くと牛首に着く。ベンチがあり大勢の登山者が休んでおり、我々も休憩してゼリーや菓子を食べてエネルギーを補給する。この先から



岩の急登になるが、一步一步ゆっくり呼吸を整えながら登り高度を上げて行く。急な岩場の道を登り切ると平坦な場所に出て、お花畑が広がる道を緩やかに登ると月山山頂神社に着く。社務所で祈祷料を納めておはらいを受け、奥の月山神社を参拝する。ここが月山の山頂で、石垣で囲われた神社を一周する。すぐ下のトイレに寄ってからお花畑で休憩し、お花を見ながら菓子をいただき、往路を戻って下山開始する。白装束の修験者の団体が下山しており、

登ってくる登山者も多く登山道は大混雑。登りの登山者を待ちながら、ゆっくり修験者の後を付いて下って行く。牛首から左に下り、リフト山頂駅に直接向かう道を下る。3年前は大きな雪渓が残っており、雪の中を下って行ったが今年は雪解けが早く雪が残ってなかった。牛首下分岐を右に進み、リフト山頂駅に向かうと雨が降り出した。リフト駅まで間に合うかと急いだが、雷鳴が轟き急に雨脚が強くなり、レインウエアーを着たがビショ濡れになった。

リフト駅に着くと「雷の為リフトの運行は雷がおさまるまで休止する」とのアナウンスがあり停止した。休憩舎で雨宿りして待つが、1時間たっても動かない。

今日の宿、御浜小屋に行くには12:30に駐車所を出ないと間に合わない。小林さんに何処か遊佐町の宿を探すように頼むと、側にいた地元の方達が「遊楽里がいいよ、あそこなら今からでも泊れるべ」と教えてくれた。遊楽里の予約が取れたので御浜小屋に事情を話してキャンセルし、安心してリフトの運転再開を待



った。1時間30分待ってリフトが再開し、無事に駐車場に着く。靴を履き替え替えたら車に乗り、遊佐町の遊楽里に向かう。遊楽里に着き部屋に落ち着いたら、まずは濡れたレインウエアーやザック、登山靴などを窓際に干した。このような状態では、とても御浜小屋まで2時間も登れなかったと思った。温泉にもゆっくり浸かれ、フカフカの布団に寝られ良かったと思う。温泉から上がったら反省会が始まり、焼酎とビールを飲みながら「遊楽里」に泊れて良かったねと話が盛り上がった。お酒を飲みながら美味しい夕食をいただき、部屋に戻ったら明日の鳥海山に備えて早めに就寝した。

8月7日(月) 銚立から御浜小屋、千蛇ヶ谷経由で鳥海山にピストンで登り、下山後蔵王温泉のペンション「ぼくのうち」に宿泊する。

遊楽里 4:20=銚立 P4:50/5:10~御浜小屋 6:50/7:00~七五三掛 8:00/8:10~大物忌神社 9:50~

鳥海山 10:05/10:30～七五三掛 12:00～御浜小屋 12:55/13:05～鉢立 P14:20/14:35＝ペンション「ぼくのうち」17:50

早朝遊楽里を出発し、今回の代替山行のメイン鳥海山に登ります。天気は快晴、登山口⑨からは、山容が尾根二つ三つ向こうに見えます。わあーと感激！遠いぞー頑張ろう！



登り始めて間もなく展望台があり立ち寄り眺めます。新山と七高山の大小二つのピークが印象的です。今日登るのは最高峰の新山です。木道やきれいに敷き詰められた石段をしばらく登ると、賽の河原に着き小休止。この辺りは大きな岩がゴロゴロ、斜面にはキスゲが沢山咲いていました。暫く登り上げると、御浜小屋に着きます。本当なら、昨夕のうちにここまで登り上げて

いたはずでしたが、月山のリフトが雷で運転休止となり麓の遊楽里に急遽泊ることになりました。

御浜では鳥海湖を眺め小休止。御浜小屋付近はお花畑が広がりゆったりとした登山道を歩きます。御田ヶ原からは、遠くに新山を望み、山道両側に咲く乱れるお花を楽しみながら気持ちよく進んでいきます。ホウボウ・イチゲ・ヤマハハコ・キリンソウ・キスゲ・シャジン等々、初夏とは違った色とりどりの花々に私は感激で何枚も何枚もスマホに収めました。



七五三掛を過ぎ、分岐を干蛇谷へ入っていき、足場の悪い道を慎重に下ると眺望が開け、雪渓と新山の山岳風景が広がります。八月というのに、谷にはいくつか雪渓が残っています。



雪渓を横切って対岸に登り、この辺りからやや急な登りになり、皆頑張って登っていきます。長い登りを黙々と登り小休止をしてここを登り切れば御室小屋という所で、Fさんが体調不良でCLと待つことになり、ほかの4人のメンバーで山頂を目指します。御室小屋にザックを置き、巨大な岩がゴロゴロ積み重なった岩場を、矢印のペイントをたどり登っていき、「切り通し」を下りさらに登ると頂上にいます。頂上は狭く、すでに2グループがいて、順番に写真を撮ります。集合写真を撮った時は生憎

雲が出ていましたが、個人のスナップを撮った時は雲が晴れ、青空が出て超ラッキーでした。

写真を撮ったら急いで下山します。登り口付近に見たことのない小さな白い花を見つけ、あとで調べたら鳥海山固有種の「鳥海フスマ」の花だということが解り、見られて嬉しかったです。(道中沢



山咲いていた変わったアザミも「鳥海アザミ」と解りました)

CL、Fさんと合流し、ピストン下山です。下からは雲がわいてきましたが、私たちが下っていくと花道を作ってくれかのように雲が晴れ、下りも尾根や稜線、お花を楽しみながら歩くことができました。行きは逆光で撮れなかった鳥海山を写真に納め、遠ざかる鳥海山を名残惜しく何度も振り返りました。日帰り8Hのロングでしたが、終日良い天気で、稜線、雪渓、岩稜、お花を見られ、とても楽しい山行でした。予定よりも下山が少し遅れ、急いで支度をして蔵王温泉に向かいます。

by 石澤

8月8日(火) 大黒天Pから刈田岳に登り、ガスの中馬ノ背を歩いて熊野岳に登頂後刈田岳レストハウスへ戻り帰宅する。

ペンション 7:00＝大黒天 P7:40/7:50～刈田岳 8:35/8:40～熊野岳 9:30/9:40～刈田岳レストハウス
10:15/11:05＝国見 SA12:20/13:10＝栃木市運動公園 P15:35

5:00 に温泉に入った。気持ちよかった。散歩に出かけた人もいたが、自分は荷物の整理をしていた。6:00 に食堂で朝食。それぞれが用意した物を食べた。トイレ等を済ませ 7:00 に出発。蔵王エコーラインを走りハイライン入口を通過し30分程で大黒天Pに着くが、トイレが無いのでその先の駒草平トイレに寄ってくれた。大黒天Pに戻りストレッチを済ませ、道路を渡って登山道に入る。

茶色の斜面を登って行くと、右手に赤茶けた山腹が見えている。その向こうが目指す熊野岳ということだが、ガスっていて見えない。樹林帯に入るとヨツバヒヨドリのピンクの花が目に入るようになった。左右にたくさん咲いている。ふと見るとアサギマダラが止まっている。Sリーダー



ーの声で見上げると10匹以上のアサギマダラが飛んでいる。感動！花に止まっている蝶は人が近付くと離れて行く。小さな声で話すようにして静かに木段を登った。皆さんはベストショットを狙って写真を撮る。ヨツバヒヨドリとアサギマダラの乱舞を3回過ぎ刈田岳に着く。群生地は樹林帯のトンネルの中だった。

登り上げると体が暑くなった。涼を求めて風が当たる所を選んで座った。

山頂から5分程で刈田嶺神社だった。天候があまりよくないのに社務所のような小屋に人がいた。

お守りを売っている。なだらかに下って御釜に近付く。真っ白で御釜は見えない。TV 番組で「晴れていたらこういう景色。」と写真が出ることもある。そんなことができないかとワイワイ話しながら歩いて行った。



リフトへの分岐を過ぎ、馬の背を北北西に向かって歩く。道がゆったり北に向いた頃、前を3人連れが歩いていた。Sリーダーが娘さんらしき人と話しながら歩く。30代か40代か？と思う。ご両親かと思った2人は85歳男性と奥さん。男性は熊野岳に今年20回目とか。今日知り合ったそうだ。道は北北東に向き風の強さを余計に感じるようになった。今日の風予報は風速10m。やはり強い。熊野岳分岐を過ぎ避難小屋へ向かう。目が開けにくい。避難

小屋からは平坦な稜線歩き。右から受けていた風が左に変わった。歩きにくいながらも勉強かなと思う。10分もしないうちに熊野神社に着いた。お参りして山頂標識へ向かう。強風でも写真は撮る。

休憩になった。Sリーダーの指示で低体温症予防に1枚着る。少しの時間で出発。下りは分岐からショートカット道を下る。戻りは風が弱くなった気がするが慣れたためかと思う。オンタデ、ガンコウラン、トウチソウがたくさんあった。御釜が見える個所に来ると期待を込めて覗き込むが見えない。リフトへの分岐が近くなると人が集まっている個所があった。



カメラを持っているので野鳥撮影かな？と思った。イワヒバリだった。地面を歩いているところを初めて見た。

レストハウスに入りトイレを済ませた後、ガスが晴れるのを待つことにした。少しでも晴れれば御釜が見えるかも知れない。ところが間もなく雨になった。レインウェアを着て下るかどうか相談していた時、Sリーダーが窓の外に、熊野岳登りで一緒になった85歳の男性を見つけた。雨の中走って行き、男性にお願いして大黒天Pまで乗せて行って頂くとのこと。しばらく待つとSリーダーが車を持って来てくれた。お陰様で雨に濡れずに済んだ。皆さん取り敢えず車に乗る。運転手だけは靴を履き替えた。エコーラインを宮城県側に下る。くねくね道路を下る時雨が1番激しかった。

遠刈田温泉を過ぎ白石ICから東北道に入る。この頃には雨は止んで来た。国見SAで靴を履き替え昼食になった。それぞれ希望のランチを楽しんだ。国見SAはリニューアルしたので新しく綺麗だった。自分は桃を土産に買った。あかつきという品種だったらしい。帰宅翌日食べたら硬かったが甘くて美味しかった。後で調べたら、あかつきは福島県を代表する品種とのことだった。台風6号の影響で降ったり止んだりの雨の中を進み、大谷PAでトイレ休憩。予定より早く15:40に栃木Pに着いた。充実した東北山行だった。

(福島 記)